

(様式2)

令和2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591700149		
法人名	特定非営利活動法人 みどり心育会		
事業所名	グループホームありがとうの家小新保		
所在地	新潟県五泉市村松1289番地1		
自己評価作成日	令和2年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和2年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地のなかに、オアシスのようなみどりあふれる景観が自慢です。四季折々にいろいろな表情が見られる庭は、ご利用者様にも好評です。春のチューリップ、初夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色。広い庭の管理は職員と利用者さまの共同作業で行います。一雨ごとに伸びる草に、職員はため息を漏らしますがご利用者さまは仕事ができたと喜ばれます。草取りが好きだというご利用者さまは毎日、黙々と草を取り土に戻すのだと、それすらも無駄にしない知恵や教えにはさすが年の功と感心するばかりです。畑の野菜も、毎日成長を楽しみに観察し、食べごろになるとハサミを片手に自ら収穫されることを楽しみにされている方もいらっしゃいました。この夏は新鮮な野菜が毎日収穫できましたので皆さんでありがたくいただきました。茄子にピーマン、オクラにシントウ、大葉にきゅうり。形は笑ってしまうようなものも多かったですが新鮮で味も抜群でした。コロナ禍により例年実施している、地域交流行事の殆どが中止となり残念な年ですが、事業所では「おもしろいこと」をしようと、ご利用者さまと相談しながら、いろいろと計画し実践してきました。「夏祭りの盆踊り」「花火大会」「野外食」「焼き芋」。夏祭りでは、提灯を皆様と一緒に作り、飾ったところ、立派な盆踊り会場が出来上がりました。「花火大会」では、近所の方から、楽しそうな様子でよかったと声を掛けていただきました。「野外食」ではご利用者様にカレーライス作りを腕を振っていただきました。カレーを作る人、盛り付ける人、果物を盛り分ける人、できることで協力いただき出来上がったカレーはそのまま屋外でたっぷりいただきました。抜けるような青空の下で開放的な気分をいただく食事は、より一層おいしく感じられました。そんな一人一人が活躍できる場を、大切に考え皆さまと職員の笑顔があふれる小新保であり続けたいと日々、頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の認知症高齢者の福祉的ニーズが高まる中、市の意向もあり、平成26年に立ち上げとなった。法人は特別養護老人ホームなどいくつもの高齢者施設やこども園を運営しており、行事や防災訓練等、様々な面で日常的に協体制が取られ、また、人事異動を通じて職員力を伸ばし、それぞれの事業所で力を発揮できるよう体制づくりを行っている。毎月の職員会議には理事長や事務長が出席し、話しやすい関係が作られ、職員の声のすぐさま運営に反映される仕組みができている。

運営推進会議には管理者だけでなく、当日勤務の全職員が出席できるようにし、また、今回の外部評価の職員との話し合いの場面では勤務を調整して5人の職員に参加してもらうなど、管理者は職員にできるだけ多くのことを経験してもらい、職員全員でより良い事業所にしていこうという強い姿勢がうかがえた。

今年度は新型コロナウイルスの影響で中止となった活動も多かったが、例年、こども園の園児との交流や防災訓練、ボランティア、地域との交流行事等で多くの地域住民の参加があり、災害時は応援協力の申し出も受けている。今後も地域に根差し利用者一人ひとりを大切にしたい運営が、管理者、職員、法人が一丸となって行われていくものと期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や運営方針については、年度初めの会議において確認し、共有に努めている。理念や方針に基づき支援を提供している。理念についてはいつでも確認できるように事務所内に掲示している。	法人の理念は年度はじめの職員会議で周知が図られるほか、ケア会議など様々な機会でも振り返っており、支援のよりどころとなっている。また、年度はじめに事業所目標を管理者、職員で考え、法人理念と共に事務所に掲示し、毎月の職員会議の資料の冒頭にも記すなど、理念や目標を意識した支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は法人主催の交流行事が計画されていたが感染症予防の為中止となった。しかし、庭の散策や散歩の際、近隣の方との日常的な挨拶などで交流が出来ていた。	今年度、新型コロナウイルスの影響で法人や事業所の多くの行事が中止となり、地域の方との交流が減ってしまったが、大正琴や太鼓の演奏など、感染対策を行いながらボランティアの受け入れを行った。散歩や買い物、除草の際に近所の方に声をかけてもらったり、法人と事業所の広報紙を回覧板で回してもらったりなど、事業所を理解してもらうよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の特徴や活動内容については広報誌などで広く地域に発信している。例年であればありがとうカフェを開催し、地域の方や現在認知症の介護をされているご家族の介護相談の話し合いの場を設けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者の現況や研修、防災訓練状況について報告している。今年度は、感染症対策の為、書面方式で会議を実施し助言頂いている。	メンバーは市の担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、地域の代表、家族代表、理事長、事務長、管理者、当日の勤務職員全員で、利用者も巻き込む形で利用者の過ごすホールで行われている。委員からは多くの意見が出され運営に活かされている。防災訓練の日に会議日をあて、事業所の活動を実際に見てもらい工夫もしている。会議録は玄関に置くほか、大切な内容は広報紙等で家族に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターの担当者には、会議開催の都度に案内をしている。取り組みについては助言をいただいている。	運営推進会議に市の担当者や地域包括支援センター職員が出席しており、また、市内のグループホームの管理者が集まるグループホーム連絡協議会でも市の担当者から意見、アドバイスをもらっている。そのほか、市主催の研修会に参加したり、分からないことを聞くなど、日常的な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所マニュアルに基づいた研修を実践し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。夜間以外玄関の施錠はしていない。	身体拘束に関するマニュアルがあり、年4回、「身体拘束廃止委員会」を開催し研修を行っている。骨折で患部を固定したギブスを外してしまうケースで検討した事例があったが、適切に対応し、早期に解消できている。夜間の徘徊のある利用者についてはできるだけ薬に頼らないケアを心がけている。効果のあった対応についてはケア会議等で共有している。また、日中は玄関の施錠は行っていない。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する法令について学ぶ機会を設けている。事業所内で虐待が起こらないように、また、見過ごす事の無いように職員同志が注意を払っている。	定期的に研修を行い、高齢者虐待防止関連法を含め学ぶ機会や虐待チェックリストで対応を振り返る機会を設けている。不適切な対応については指摘し合えるような職員関係を大切にし、ケア会議等を通して互いに学ぶ機会づくりに力を入れている。また、管理者は普段から職員の話聞くようにし、職員がストレスを溜めないよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見制度について学ぶ機会を設けている。必要とされる方がおられればそれらを活用していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、解約条件や必要な手続き等について説明を行いご理解いただいている。質問や疑問については、その都度回答し納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には苦情、相談箱を設置、面会カードには面会者が意見や感想を気軽にかけるように工夫している。	運営推進会議や面会時などが家族から意見、要望を聞く機会となっている。新型コロナウイルス感染拡大前は家族参加の行事も良い機会となっていた。普段から利用者、家族が意見を出しやすい雰囲気作りに努め、出された意見、要望は職員間で共有し、すぐに対応するよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、毎月の職員会議に出席し職員の意見や提案を聴く機会を設けている。	毎月の職員会議に法人理事長、事務長が出席し、出された意見は運営に関わることやお金のかかることなどについてもすぐに検討し対応されている。また、管理者は職員が話しやすい関係作りに努め、日ごろから職員の意見を聞くよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務実績など把握し各自が向上心を持って働けるよう職場の環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、法人主催の研修会を開催したり、ひとり一人の必要に応じた研修への参加を促し、実践力の向上に努めているが、本年度は感染症対策のため事業所内で研修ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は市内の同業者との交流会に管理者を参加させ意見交換できる機会を設け、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階でご本人の訴えに耳を傾け、困っていること不安なことなどの要望などの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階でご家族が困っている事や、不安に思っていること、要望などに耳を傾けながら話のしやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入するにあたりご本人やご家族の思いや要望をくみ取り必要な支援を見極めている。事業所でも対応できる支援と他のサービスの説明も初期の段階で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来ることや苦手なことを職員が理解し、生活の場面で無理のないように一緒に作業したりと共に生活する関係であると考えている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、可能な範囲内のできる事のお手伝いをしていただいている。感染症対策のため、面会等も制限があったことから電話などでの連絡をお願いするなど現状でできる範囲での関係作りに努めてきた。	面会や電話、広報紙、手紙などを通じて利用者の状況を伝え、家族との情報共有に努めている。また、受診の同行や買い物、墓参りや馴染みの美容院に連れて行ってもらうなど、家族の協力を得ている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係継続の支援は大切に考えているが、感染症対策があり思うに任せないことがほとんどであった。	馴染みの人や場所について、入居時に本人や家族、居宅介護支援専門員などから情報を得て記録し、入居後に得られた情報についても追記している。親戚や友人の訪問を大切に、部屋に案内したり、希望があれば食事の提供もできることになっている。馴染みの神社を訪ねたり、家族が馴染みの美容院に連れて行ったりと、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係の把握に努めている。また、トラブルが発生した場合にはそれ以上に関係性が悪化しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら必要時、相談や支援に努めている。住み替えが必要になった場合には、新しい環境に戸惑うことが無いように情報の提供を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや意向の把握に努めている。意向の確認が困難な場合には、生活歴や情報の収集に努めご本人の気持ちに沿うようにと検討している。	入居前の聞き取りや介護計画を立てる際にあらためて個別に意向を確認する機会を設けている。日頃の生活場面でも思いや意向を聞いているが、普段の生活の中での話や行動から得られる情報も多い。得られた内容は情報シートなどに記録し職員で共有して意向に沿った支援を行うよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族より生活歴の作成をお願いしている。生活のなかでご本人から、聞き取ることもあり、その情報は職員間で共有している。	入居前の本人、家族、居宅介護支援専門員からの情報、入居後の本人の話のほか、面会に来られた親戚などから情報が得られることもある。それらの情報は情報シートなどに記録し、ハーモニカ演奏や野菜の栽培など日々の利用者の活動にも活かされている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムや、その日の心身の状況の把握に努めている。調理の下準備や洗濯物たたみなどできること、やりたい事への協力や支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議などでご本人の現状や課題について意見交換を行い現状に即したサービスの提供に努めている。	本人、家族に意向を確認し、ケア会議で課題等について検討し、計画作成担当者が介護計画を作成している。計画は朝のミーティングで職員に確認、検討され、家族には面会時に確認してもらい本人にも説明されている。現在はコロナ禍により家族の確認は電話で行っている。毎月、居室担当職員が計画の項目に沿ってモニタリングを行い、半年ごとに見直しが行われている。また状態に大きな変化があった場合はその都度計画の見直しが行われている。	介護計画はあくまでも本人が主体となって作成、実施されるものである。本人、家族の意向の確認や作成された介護計画の確認、同意は得ているが、サービス担当者会議への参加など介護計画が検討される各段階に本人、家族に参加してもらい、本人、家族とともに計画が作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活のなかでの様子や、気づきについてケースへ記入し職員間で情報の共有を図り実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や外出など、ご家族の対応が難しい場合には職員が対応している。ご本人のストレスや不安、ご家族の負担が増えないように、その時々に必要なニーズには柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所への外出支援を通してご家族や友人との繋がりを大切にし、これまでの関係性が途切れないように支援に努めているが、感染症対策の為、制限されたものであった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係は継続している。受診の際には、日々様子について情報提供し、指示を仰いでいる。必要時、職員も同行し適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医は本人、家族で決めており、これまでのかかりつけ医を継続している利用者が多い。受診は基本的に家族に同行してもらっているが、本人の事業所での状況をきちんと伝える必要がある場合など状況に応じて職員も同行している。また、利用者の状況を書面で伝えるなど、家族、医療機関、事業所で情報の共有がなされ適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職の配置はない。受診時には、生活のなかでの気づきや情報などを主治医に伝達し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、面会に出向きご本人やご家族との関わりが途切れないように努めている。また、医療関係者との情報交換を行い安心して治療に専念し退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に利用条件及び退去条件については説明し理解いただいている。重度化が予測される場合には早い段階でご家族と話し合い、主治医に相談し特養を含めた住み替えについて勧めることになる。	入居時に重要事項説明書により事業所で対応できること、できないことについて具体的に説明している。重度化した場合は早い段階から少しずつ家族、医師と相談し住み替えの時期や場所などを検討している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを含む生活内で起こり得る事故、怪我について初期対応ができるように研修を行っている。	誤嚥、発熱、嘔吐、感染症など様々な場面に関する対応マニュアルを整備している。また、実践力を身につけるため、3年で一巡するような形で職員全員が消防署の普通救命講習を受けられるよう調整している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害を想定した訓練を実施している。本年は消防署立ち合い訓練の中止もあり、内部研修で対応について学んでいる。	毎年2回、消防署立ち合いのもと、日中や夜間の火災や地震などを想定した避難訓練を実施している。ほかに不審者対応の訓練も行った。避難訓練には隣接する医院の看護師や町内会長の参加もあり、非常時には応援協力をしてもらえる関係が構築されている。また、法人の施設間の協力体制もできている。3日分の食料の備蓄やストーブ、卓上コンロ、紙パンツ、寝具などの準備もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念のもと、一人一人を年長者として敬う気持ちを忘れることなく、その方のプライバシーに配慮した言葉かけに努めている。	内部研修でプライバシー保護をテーマに学習している。排泄など介助場面では尊厳やプライバシーに配慮し、言葉かけの際の態度、雰囲気にも気をつけている。また、気づいたら指摘し合える職員間の関係作りにも努めている。同性介助の希望にはできるだけ対応し、個人に関する記録は事務所でいい、帳簿類も事務所で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中での、表情や会話に耳を傾けご本人の分かりやすい言葉かけで自己決定ができるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースやリズムを大切に对应するように努めている。職員の都合が優先するような場合には、皆さまに説明し同意を得るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の個性や趣味を大切にしながら、季節に応じた装いが出来るようにお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや状態を把握し、献立をもとに作っている。お米は地場産のものを、農家より直接仕入れている。調理の下準備や洗い物などはできる方と一緒にしている。	利用者の好みや状況を把握し、希望も取り入れながら職員が交替で献立を考えている。可能な利用者には、野菜の皮むきなどの下ごしらえや盛り付け、片付けなどを手伝ってもらっている。また、プランターで育てた野菜を使ったり、梅干しやたくあんを漬けたり、行事食を楽しんだりしている。新型コロナウイルス感染拡大前は職員も一緒に食事し、外出行事に合わせて外食に出掛けたり、出前を取ったり、弁当配達してもらうなどしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や習慣に応じた形態での提供を行っている。お茶以外にもお好みの飲料が提供できるように準備している。必要時には水分表を使用し、水分摂取量の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの見守り、必要時介助を行い口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じた排泄支援を行っている。排泄表を活用して排泄のリズムの把握に努め、声掛けや誘導する事で自立に向けた支援に努めている。	排泄表を使って排泄リズムを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。紙パンツから布パンツ使用になった利用者もおり、自立に向け成果も見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事での改善や水分補給を促しスムーズな排便が出来るように配慮しているが、必要時には、主治医の指示を仰ぎ下剤投与などその方に応じた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日固定で実施している。希望や必要があればいつでも入浴が出来るように柔軟に考えている。ゆっくりと入浴を楽しむことができるようにお好みの湯量や温度入浴剤の準備もしている。	週3日を入浴日とし、拒否のある利用者には言葉かけを工夫するなどして、ひとり週3回の入浴を基本として支援している。夏場などはそれ以外にもシャワー浴をしてもらうこともある。しょうぶ湯やゆず湯、入浴剤を使ったり、また、職員とのマンツーマンの時間をゆっくり楽しんでもらうよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や状況に応じて休息が出来るように工夫している。室内の温度や照明、窓からの採光などの調節に配慮し環境を整えることで気持ちよくお休みいただけるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の必要性や副作用について周知を図っている。服薬による体調の変化などを注意深く観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやドライブ、生活のなかでの楽しみ事やできることの把握に努め、その活躍できる場面を皆さんの楽しみとなるように配慮し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策継続中の為、気軽な外出や買い物が制限されており思うに任せない状況であった。事業所内でできる行事で皆様に楽しい時間を提供するように努めた。	日常的に散歩やドライブ、買い物などに出かけている。また、ウッドデッキのベンチで過ごしたり、好きな利用者には敷地内の草取りをお願いしている。コロナ禍以前は、四季折々、法人の車を借りて花見や紅葉狩りなどの外出機会を作り、家族の協力を得て出かける機会なども積極的に設けていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方、希望する方はご家族の理解、協力のもと所持して頂いている。買い物については、感染症対策継続中の為、皆さまの期待には応じきれない状態であった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人、知人の方との電話や手紙のやり取りを希望される方には、その方の能力や希望に沿った形態での支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは皆さまが安心して過ごせるように、家具の配置や照明、温度などの環境整備に心掛けている。季節ごとの共同制作した作品を展示したり、庭の草花を活けたりと季節感を取り入れた居心地のよい空間作りに努めている。	共用空間は毎日職員が利用者の協力も得ながら掃除し、除菌水で消毒されている。また、加湿器を設置するなど温度、湿度に気を配り、気になる臭いもない。リビングの大きな窓からは日本庭園が眺められ、壁面には利用者が作った季節の作品が飾られ、暖かく落ち着いた雰囲気を作っている。テーブル、ソファなどの家具の配置にも配慮し、利用者に伝えながら変更している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外に、ソファセット、通路には休息用の椅子を設置することで思い思いに寛ぐことができる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は安心して生活できるように使い慣れた、馴染みの品物や思い出の物などを持ち込んでいただくことで今までの生活の継続がこちらでも送れるようにと考えている。	使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝え、その人らしい居室作りが行われている。家具の配置は本人、家族と相談しながら決めている。床はフローリングであるが、好みによって畳を敷いている利用者もいる。掃除は、できる利用者にはやってもらいながら、基本的には職員が行い清潔に保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースのホールに安全に移動できるようにテーブルや椅子を配置し、各居室には希望によりネームプレートを設置、トイレはイラスト表示で分かりやすく工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				